



空き家所有者と移住者に寄り添い サステナブルな曽爾村を実現

秋にはススキが一面を覆う曽爾高原が絶景なことで知られる曽爾村。近年は過疎化が進み、人口は多い時の5,000人から1,300人を下回ってきました。そんな曽爾村で「すまい」「しごと」「くらし」を軸に移住定住のトータルサポートを行っているのが「一般社団法人 SONI SUMMIT」です。移住相談におけるワンストップ窓口として、ひとりひとりに寄り添い、移住のカチをサポートしています。[写真左より/菊原さん・南さん・渡辺さん(SONI SUMMIT)・椿井さん(曽爾村企画課)]

移住相談と空き家発掘の両輪で



一般社団法人 SONI SUMMIT
代表理事
菊原 一仁さん

曽爾村に来たのは3年前の7月。元々は東京の金融機関に勤めており、神奈川県横浜市で住んでいました。退職する前の3年ほどはサステナビリティ(持続可能性)に関わる仕事を担当しており、その頃から地域のサステナビリティに興味がありました。また十数年東京

で働いてきて、地域の疲弊、過疎化の話を知っているうちに、実際に地域に入り、どうすれば人を呼ぶことができるのかなどさまざまな地域が抱える問題の解決に関わる仕事をしてみたいと思うようになりました。最初は関東圏でそういった仕事を探していたのですが見当たらず、地元が香芝市だったということもあり、奈良県も含めて探したところ曽爾村で移住定住を促進する組織を立ち上げて欲しいという募集を見つけ、まずは地域おこし協力隊として曽爾村に移住し、2021年12月に一般社団法人としてのSONI SUMMITを立ち上げました。

曽爾村に移住した当時約1,400人だった人口は現在約1,270人、3年で130人ほど減りました。また、

村内約800戸のうち約120戸が空き家となっていて、空き家率は15%(令和2年度調査)です。そんな人口減少の問題に直面している曽爾村ですが、一方で村への移住を希望される方も増えています。私たちは、移住相談と空き家の発掘の両輪が揃ってこそ定住につながると考え、空き家バンクや移住希望者に対するお試し住宅、仕事がなければ生活もできませんので求人情報の見える化や起業支援などに取り組んでいるところです。



ひとりひとりに丁寧に寄り添う

「すまい」に関する情報を掲載している空き家バンクは、以前まで年間5~6件だった登録件数が昨年度は18件に増えました。ですがその一方で、移住希望の登録者数は昨年度で55件と、需要と供給があていないのが実情です。

空き家所有者の方には、長期間放置することによる改修コストの増加や売却、賃貸によるメリット・デメリットを丁寧に説明しています。道筋を時間軸を踏まえ説明することで理解いただけることが多いです。1件1件丁寧にサポートしていく中でどうしていいかわからず動けなかった方が、私たちの情報提供や近所の方の口コミで理解を深めていただいております。空き家相談件数も増えてきています。

一方、移住を希望している方には、「曽爾村はいいところですよ」とは決して言わないようにしています。

良いところも悪いところもリアルに提供し、納得して移住してもらうことを大切にしています。昨年度でいうと101組の移住相談があり、うち13組21名が移住しています。

実際、地域の方々からは、移住して来られた方を受け入れたことで、「子どもがいてくれることで地域がにぎやかになった」「空き家に電気が灯ることで明るくなった」「移住してきた方の感じが良く、地域の行事などにもしっかり参加してくれる」というお言葉をいただいています。草刈りや川そうじなどこれまでは人手が足りず苦労した地域も、移住してきてくれたおかげでできるようになったと実感していただいております。私たちが受け入れのメリットを説明するよりも、村民が自ら感じ取っていただき口コミが広がっていると思います。

地道に3つの機能を充実

私たちは、一時的な移住を求めているわけではありません。来ていただいた以上は長く住んでいただきたいので、今後は村内産業の振興といった産業面のサポートにも努めていきたいと思っています。これからも「すまい」「しごと」「くらし」の3つの機能を充実させ、しっかり情報提供し、満足度の高い移住促進を図っていきたく。地道な作業ですが、これまでもやってきましたし、これからも継続していかねばならないと考えています。

